

# 情報ワイド

## 没後40年超えて

# 「生きている」絵。

### ちひろ美術館・常任顧問の松本猛さん語る

## いわさきちひろ展 生誕100年

1918年12月15日に生まれた画家いわさきちひろの展覧会「生誕100年 いわさきちひろ、絵描きです。」が25日まで、京都市下京区の美術館「えき」KYOTOで開催されている。長男でちひろ美術館(長野県松川村/東京都練馬区)常任顧問の松本猛さんは、没後40年以上を経てもちひろの絵が「生きている」のはなぜかを考えてほしいと話す。

(林屋祐子)

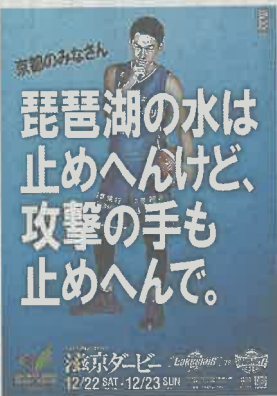


ちひろの描き方について、拡大された図版の前で説明する松本さん(京都市下京区・美術館「えき」KYOTO)

## 子の瞳と向き合う

愛らしい子ども、生まれるちひろの、いとつ人もいる松本さんは言う。子どもには白目タリア人画家モテも見られる表現だ。瞳に見透かされる、この人物の「この人物の」を考えを自身に向ける人。同じ18年生まれと目された日本画は、ちひろが描くには「あの時代をの悲しみが込めら」と評したという。女性が自立して、さ。ちひろは少女中に過ごし、戦後党入党、人民新して記事も書いたねりを肌で感じて作品の地下にある。一方で、子ども持ち続けた人でも爆が題材の絵本「いさかた」のときに、広島を訪れた際、い宿で、大勢の子になったことを思いきなかつたという。

### 子ども記者が初取材 プロバスケ滋京対決



22,23日の「滋京ダービー」をPRするポスター

プロバスケットボールの滋賀レイクスターズが22、23日、大津市におの浜のウカルちゃんアリーナ(滋賀県立体育館)で京都ハンナリーズと対戦する。この試合で、事前応募の児童が子ども記者として観戦後、選手に取材する初の試みを行う。レイクスとハンナリーズの対戦は「滋京ダービー」(京都では京滋ダービー)と呼ぶ。ホームタウンの大

津市と京都市が電車で10分の両チームは、bjリーグ時代からプライドをぶつけ合ってきた。対戦成績は滋賀30勝、京都31勝と互角で、今回も熱戦が期待される。子ども記者は1試合5人ずつでレイクスが募集した。京都新聞記者に取材のアドバイスを受けた後、試合を観戦し、終了後に選手を「囲み取材」して感想や今後の抱負を聞き、記事にまとめる。子ども記者の原稿は後日、京都新聞ジュニアタイムズ紙上で紹介する予定。22,23日の試合はまだ空席がある。来場者先着2500人に滋京ダービー特別メガホンなどのプレゼントもある。チケットの問い合わせは077(527)6419。

## PERKS OF WAYSIDE SATURDAY

パークス オブ ウェイサイド サタデー

福富 優樹 (HOMEcomings)

## クリスマス

すっかり街も本格的な冬の匂いがしてきた。喫茶店や本屋さんでもクリスマスソングが流れ始めた。僕は冬が大好き



きた。寒い季節、大好きだ。マフカるイヤホンも、までのレコード、大学時代、クルトコンペヤ、る焼きたてのピ、箱に放り込んで、する日のことだ。一番忙しいその、ワクワクして楽丸太町には欧、菓子店がある。キ屋さんの雲からの匂い、シ、い香りがする。

幼い松本さんが嵐の日に外へ出たいと楽しんでくれる母親だったという